

2021

# ふれあい

特別号



～満足のバリアフリーを実現するノウハウ～

公益財団法人

**ノーマライゼーション住宅財団**

# 私たちの「願い」

---

## —— 公益財団法人として ——

私たちは、公益に資する法人として、  
「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」という  
ノーマライゼーションの理念に基づき  
高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備、 向上を通して  
すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に、すべての事業に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため  
尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう  
心からお願い申し上げます。

# より快適な暮らしの実現を

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団  
理事長 土屋 公三

この「ふれあい」は平成元年以来、年1回ながら定期的に発行するバリアフリーの実例集として、多くの皆様にお役立ていただいております。

昨年は世界中がコロナ禍に覆われました。たくさんの人々が経済活動や生活の変化を余儀なくされるなか、私たちも取材活動などによる感染を懸念し、当財団創立以来、欠かさず継続してきた「ふれあい」の発行を、初めて見送らせていただきました。

いまだコロナ禍の完全な収束が見えないなか、私たちは外出の機会を大幅に減らざるを得なくなっています。それだけに「より快適に過ごせる住まい」が一層求められているのではないか。こうした状況に少しでも貢献したい、という想いを込めて、今年度は「ふれあい特別号」を発行することといたしました。

今号もウイルス感染リスクから実例取材ができない状況のため、従来とは内容を変更していますが、バリアフリー住宅を検討される皆様にとって役立てていただける1冊を目指しました。

コロナ禍に苦しむすべての皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、むしろ、この難局を皆でスクラムを組んで乗り切ることによって、ノーマライゼーション社会構築が加速することを願っています。



2021  
ふれあい  
特別号

より快適な暮らしの実現を

(公財)ノーマライゼーション住宅財団 理事長

土屋 公三

ミスを防ぐカナメはここ  
バリアフリーのポイント



解説…牧野准子さん

4

土屋ホームトピア  
こんなハウスメーカーを待っていた!  
ノーマライゼーション支店

建築士福祉のプロがバリアフリーのありゆる相談に対応

ワンストップで

12



安心・快適! サポートアイテム  
安心の機器・あの補助具

16



～表紙イラスト～

中井 亜佐子さん

札幌市在住のイラストレーター。  
北海道造形デザイン専門学校  
グラフィックデザイン科出身。  
北海道イラストレーターズクラブ  
アルファ会員。

## 目 次

サイズも用途もジャストな機器を  
独自の技術*イレクター*で実現

脳性まひでもスマート自走  
ABSを駆使した車いすRhythm

誰でも水遊びを思いっきり満喫

水に浮く車いすウォーターワイール

スイッチ操作で座面が上下  
施工も不要のらくちんバスリフト

ミスをしないための  
“教訓的”いくつかの事例

矢崎化工株式会社 18

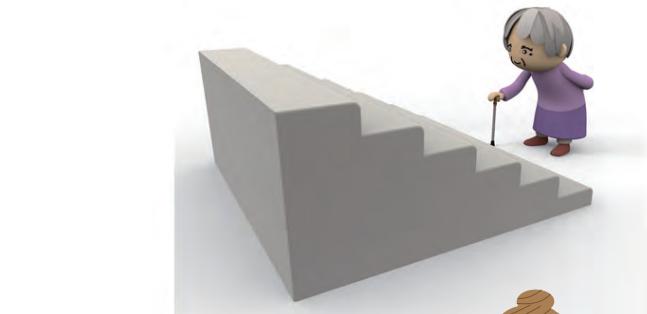
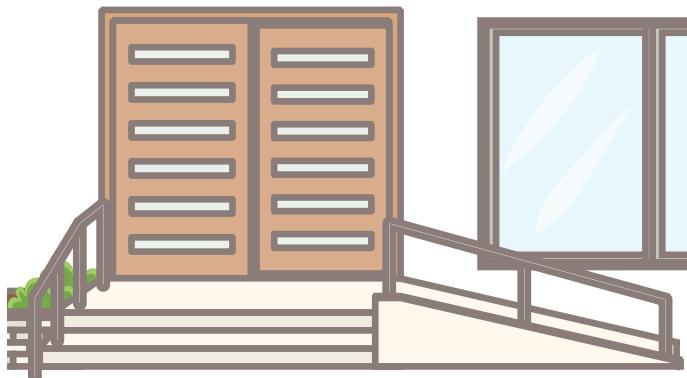
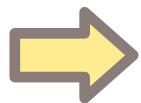
アビリティーズ  
ケアネット(株) 20

株式会社 ミキ 22

TOTO株式会社 24

# ミスを防ぐカナメはここ バリアフリー9のポイント

住む人のために配慮すべき要素が格段に多くなるバリアフリー住宅。しかし、この情報は非常に少ないのが現状である。自身も障がいと共に生きる建築のプロが、"バリアフリーでミスをしないためのポイント"について解説します。





解説:牧野 准子さん

2005年、インテリアコーディネーター協会会長就任時に脊髄の進行性難病を発症。傷心のなか「無駄に生きてはもったいない」と一念発起。車いす建築士としてインクルーシブ、ダイバシティ目線の福祉住環境のまちづくり、障がい者雇用対策、ユニバーサル観光普及への調査・提言など、幅広い分野で活動中。並行して心のバリアフリーを伝える講演を、企業、学校、地方自治体等で数多く行っている。「平成30年度北海道男女平等参画チャレンジ賞」輝く女性チャレンジ賞を受賞。札幌市「まちづくり戦略ビジョン審査会委員」の行政委員、「心のバリアフリー研修会」講師等も担う。(公財)ノーマライゼーション住宅財団理事。

## 誰のためのバリアフリーか 使う人の希望を尊重

chapter 1

「障がいのある家族が快適に過ごせる」「老後でも安心して暮らせる」「介護する人の負担を軽減する」などなど、同じバリアフリーでも目的はいろいろです。

さらに使う人によって、個人差があることを忘れてはいけません。まず“しっかりと使う人に合わせてプランすること”を重要視しましょう。

例えば手すり。使う人の身長、体重、手の長さ、動作のくせ、体形、障がいの特徴などによって、使いやすい高さや位置、長さ、形状など考慮しなければならない点が多くあります。

もちろん手すりだけでなく他の配慮に関しても同じこと。市販のマニュアル本などには、バリア



フリーの基本的な事柄のみしか説明されていないことが多いのです

が、実際には障がい、身体状況に応じて、講じるべきことは変わつてきます。

私が知っているなかには、使う本人の意思をしつかり確認しない

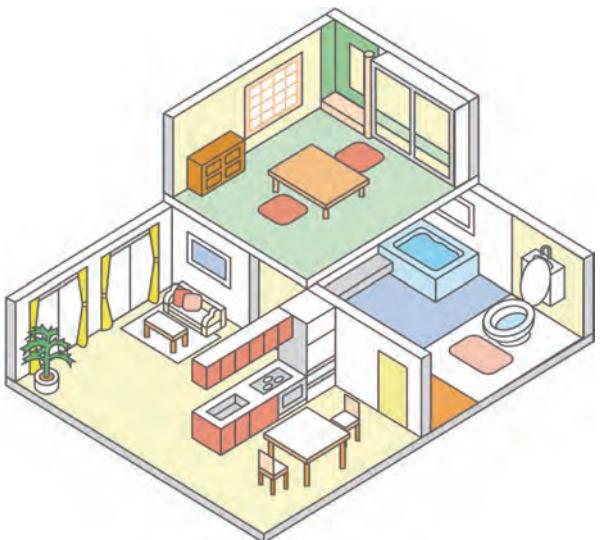
## 障がい者・高齢者イコール "バリアフリー" ではない

chapter 2

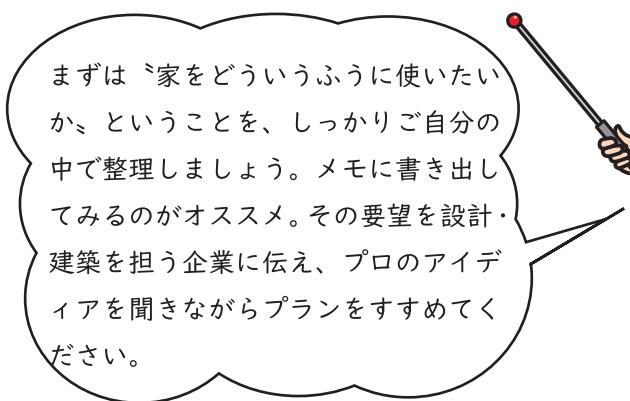
家族が望むライフスタイルに応じて進めるのが、住まいのプラン

人以外、周囲の判断で行った配慮のいくつかは無駄になってしましました。バリアフリーは使う人の希望に沿ながらプランを進めていく。これが大前提です。





ニングで最も大切なことです。  
もちろん使う人の必要に応じた  
バリアフリーは講じていかなければ  
なりません。しかし必要性の無  
いバリアフリーで高額になつたり、  
必要な人以外の家族にとつて使い



まずは「家をどういうふうに使いたい  
か」ということを、しっかりご自分  
の中で整理しましょう。メモに書き出し  
てみるのがオススメ。その要望を設計・  
建築を担う企業に伝え、プロのアイデ  
アを聞きながらプランをすすめてく  
ださい。

にくいといった“負の設備”にな  
りかねないので注意です。  
例えば私の場合、お料理は立つ  
たままできないので、座つて行い  
ます。しかしバリアフリーキッチン  
は必要を感じていません。いずれ



障がい者や高齢者だからといっ  
て、どこかしこにバリアフリーを  
取り入れる必要はありません。自  
身や家族が希望するライフスタイル

身体を支えることが難しくなつた  
ら、お料理は頑張らずに家族やへ  
ルパーさんなどにお願いしようと  
考へています。障がいの無い人に  
とつてバリアフリーキッチンは使  
いにくくて高額。だから採用しま  
せんでした。

### chapter 3 移動しやすくて最短距離 動線はバリアフリーの要

スムーズに移動できる動線は身  
体の不自由な人だけでなく、誰も  
が先々も快適に過ごせる家づくり  
のカナメです。身体機能の低下度  
合いが大きい人ほど、動線の良し  
悪しの影響が大きくなります。

例えばトイレは家の隅っこに配  
置する間取りが主流ですが、近年  
はスムーズに行きやすいように、  
あるいは寝室の間近に配置すると  
いった、動線や間取りの工夫が増  
えてきました。障がいの有無に関  
係なく、高齢になると夜中にトイ  
レに行く頻度が増えるからです。  
もちろん介護が必要な家族がい  
る場合も、トイレへのアプローチの

ルをしつかり再確認して、必要に  
応じたバリアフリーを講じてき  
ましよう。

牧野さんのご自宅は、ご本人の障がいにしっかり対応できる工夫がいっぱい。浴室(右上)は、浴槽の高さとピッタリ同じ高さのバスチェアを置くことで、単身でも入浴ができます。必要な箇所には手すりを施工し、手を添えながら伝え歩きしたり、時に腰掛けもできるよう家具を配置。リフォームされたばかりの時、ご主人が事故に遭ってしまったため、牧野さんはしばらく単身で過ごしましたが、このご自宅では不自由なく生活できたとのことです。



しゃすきは介護する人の大きな助けになります。また、移動の最中に失敗してしまったことを想定して、シャワーや手洗い設備、浴室などが近くにある間取りにすると、より理想的でしょう。

トイレと同様に、生活する上でどういう移動が多く、どういう動線が理想的か、ということを確認しておくこと、その理想的な動線を実現化することは非常に重要です。

また屋内を安全に移動できるよう手すりを設置することもありますが、手すり伝いにしか移動できなかつたり、家具が配置できなくなるなど、場所によっては不便が生じることもあります。これも私の自宅の例ですが、テーブルやチエストなどの家具の配置を工夫したり、可動できるスツールや椅子を置き、所々に手を添えられるよ

うになります。また、移動の最中に伝え歩きができるようにしました。

安全を第一に考慮しながら障がいに応じた工夫を行うことで、移動しやすく過ごしやすい空間づくりが理想的でしょう。



うにすることで、手すりの代わりに伝え歩きができるようにしました。

安全を第一に考慮しながら障がいに応じた工夫を行うことで、移動しやすく過ごしやすい空間づくりが理想的でしょう。

りは十分可能になります。

## 見落としがちな照明器具

### 電球の交換頻度にも注意

多くの人は加齢と共に明るさの感じ方が低下します。そして障がい者や高齢者にとって電球交換は大変な作業。間違えると大きなケガを負う危険性もあります。最近は少なくなつたようですが、以前はヘルパーさんに電球交換を頼んでも「私たちの管轄外です」と断られるケースもあつたとか。現在はどうかわからないのですが、先々を見越して照明器具にも注意を払つておくことがオススメです。

例えば「LED電球の採用。」LEDは寿命が平均18年とされているので、蛍光灯などよりも交換頻度が格段に減少するし、電気代も節約できます。購入の際は高額ですが、トータルで考えると新築、リフ

するなら、やはり「LEDがいいでしょ。」

オーム時に新たに照明機器を導入するなら、やはり「LEDがいいでしょ。」

最近は「LED電球の光源も多様で、また手元で明るさなどを操作できるリモコン付のタイプもあるので便利です。

### 畳? フローリング?

#### 長所短所や床材を吟味

やつぱり日本人にとって和室はやすらぎの空間。特に高齢者に配慮した家、長く住みたい家に和室を取り入れるケースは多々あります。

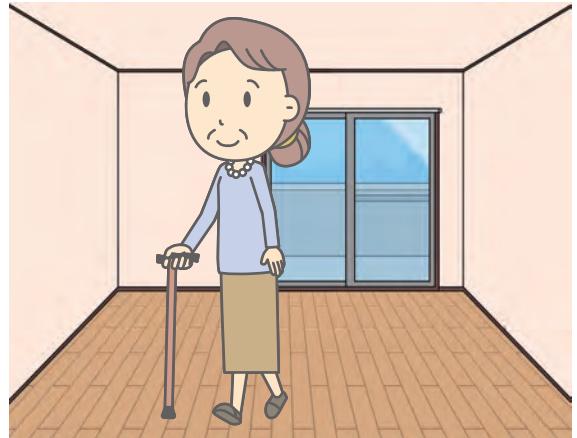
しかし高齢と共に歩行が“すり足”になりがちです。そうすると畳は擦れて傷みやすくなつてしまします。また脚が悪くなると正座が苦痛になつたり、畳に敷く布団からの「起き上がりも大変」になるでしょ。



確かな技術のある施工会社なら、和の建築物でもしっかりバリアフリーにしてくれるんですよ



もしそれません。



そして畳と床、共に要注意なのは、カーペットやラグを敷いて使用する場合です。高齢になると、ほんの僅かの段差にもつづき、転倒する危険性が高まります。実際、事例も多々あるので、カーペットやラグは足への引っかかりやすさ、厚みを慎重に見極めながら採用してください。

### chapter 6 収納は先々を考えて 使いやすく・覚えやすく

長く住むほどに、家にはいろいろなものが増えがち。収納の工夫は快適に住むためのポイントですが、ぜひバリアフリーも意識した工夫を取り入れてみてください。

照明器具と同じく収納も、高い場所にものを出し入れする際は危険が伴います。使う頻度を考えながら、度々出し入れするものは手の

最近では床、壁、天井の仕上げ材が多様化し、多彩なコーディネートが可能になりました。和室風にしつらえた部屋に椅子やベッドを配置して使うこともできるので、和の空間を希望する方は検討してみてください。

床、フローリング材仕上げの洋間は、日本でもすっかり定着しました。車いすや杖の移動に配慮するバリアフリー住宅の場合は、特に採用されるケースが多いです。

収納スペースに「住所」を設けて、決まった住所に決まった物をしまう。こうすれば、どこに何があるかわかりやすいし、計画的な収納もしやすいですよ



届く高さや手前に納めたり、奥までスムーズに出し入れできるよう、何かしらの工夫をしておきたいものです。

また高齢になれば、どこに何があるか分からなくなりがちです。

決まった場所に決まったものをしまえるよう、スペースの確保と分かりやすくなる工夫も必要です。場合によっては収納スペースの扉を外してオープンにし、目視できる透明ケースをおいてものを收めるのもいいかもしません。

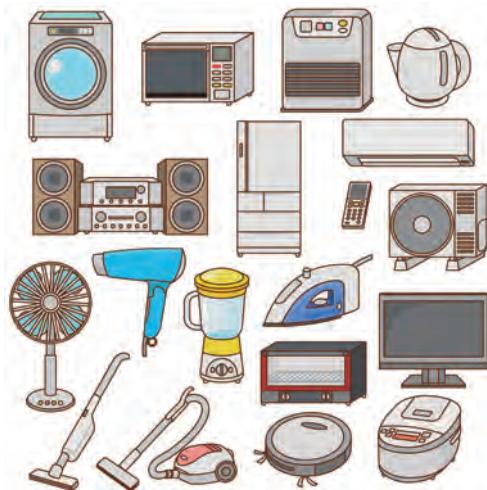
## これまで多機能なもの、ほんとうに必要?

chapter 7

生活で使用する機器や設備によつては、驚くほど多彩な機能が備わっています。はたしてそうした機能は、使う人にとってどれだけ

必要でしょう? 購入や採用する前にはしつかり説明を受け、必要性や扱い方をよく理解した上で決めようにしてしましょう。複雑過ぎる機能は、かえって混乱の原因です。

とはいっても、使う人によっては多



生活中に何が必要かをよく考えて、機器の配置も計画的に。電源ケーブルや配線をスッキリしないと事故にもつながります



機能が素晴らしい効果的なこともあります。例えばウォシュレット乾燥機能。「必要ない」と感じる人は多いかも知れませんが、片麻痺の人には大変便利な機能です。冒頭でも説

機器の配置、それに応じたコンセントの位置を事前に考えておかないと、いたずらに電源コードを伸ばす必要が生じてしまい、引っかかり・転倒の原因となってしまします。見た目にもよくなないので、しっかりと事前に検討してください。

## 家族みんなが末永く安心して住める家に

chapter 8

いつかは誰もが高齢になるもの。また、人生どこで病気や怪我を負い、障がいを持つかわかりません。その点を考えた「先々もずっと住み続けられる住まい」への需要も増えてきています。

新築や建替え、大規模なリフォーム

明した通り、機器・設備も使う人に応じた選択が大切です。

でもスムーズに出し入れできるよ

う、何かしらの工夫をしておきた

いよいよ、やるよ。複雑過ぎる

機能は、かえって混乱の原因です。

また電気を必要とする機器がたくさん必要な場合は、コンセントも多めに使うことになります。機

器の配置、それに応じたコンセントの位置を事前に考えておかないと、いたずらに電源コードを伸ばす必要が生じてしまい、引っかかり・転倒の原因となってしまします。見た目にもよくなないので、しっかりと事前に検討してください。

ームを検討されている方は、将来に備えて次のような事柄を取り入れておくことで、いざ自身やご家族の身体状況に変化が起きた時も柔軟に対応できる、つまりバリアフリーがしやすくなります。

の費用が抑えられます。

## 生き甲斐につながる "やさしさ"を増やす

に備えて次のような事柄を取り入れておくことで、いざ自身やご家族の身体状況に変化が起きた時も柔軟に対応できる、つまりバリアフリーがしやすくなります。

○手すりはあらかじめ設置するのではなく、必要に応じて施工でできるよう壁に下地を入れておく。

○ドアを開き戸ではなく引戸にしておく。

○階段や通路幅は極力広く取つておく。階段の傾斜はゆるめに。○玄関のアーチに階段を設けない。

○真横に納戸などを配置する間取りにして、トイレのスペースを拡大しやすくする。

こうした備えをしておくことで、バリアフリーが必要になつた際でも施工がしやすく、改修工事

住環境を整えることで、障がいがあつても“できること”が増えます。できることが増えることは、障がいのある人にとつて生きる希望につながり、心のあり方が変わつてきます。私自身が実感したことでした。もちろん家族の負担も軽減します。

そして日々の暮らしを楽しめる家づくりも大事にしてください。施設のような住宅ではなく、好みのセンスを取り入れ、ハンドルを感じさせないようにしましよう。素敵な住環境は、高齢になつても、障害があつても、自分自身を“あきらめない心”に変えてくれるようアシストしてくれます。



身体の不自由な高齢の方も障がいのある方も、できることが増えるほど“生きる力”が湧いてきます！バリアフリーの行き届いた安心・快適な住まいは、生きる力をサポートしてくれる暮らしの拠点。家族みんなが楽しい毎日を過ごせる理想の住まいを、上手なバリアフリーで実現してください！

# こんなハウスメーカーを待っていた！



## 建築と福祉のプロがバリアフリーのあらゆる相談に対応

ワンストップで



プランニングはもちろん福祉機器の購入・レンタル、助成金の情報提供や申請代行etc…。

土屋ホームトピア・ノーマライゼーション支店は一昨年、バリアフリー住宅に関するあらゆることをワンストップで対応できる新体制にリニューアルしました。バリアフリーに悩む人が気軽に足を運び、なんでも相談できる、なんとも頼もしい「駆け込み寺」の誕生です。

土屋ホームトピア ノーマライゼーション支店

札幌市厚別区厚別南1丁目18-1

☎: 011-896-3310

## まだまだ少なく不明瞭な バリアフリーの情報

これまで当財団では、およそ350例のバリアフリー住宅を紹介してきました。その取材を通じて、ほとんどの施主の皆様から寄せられたのが「自分や家族にとって最適なバリアフリーの住環境を実現するためには、どこに相談すればいいのかわからなかつた」という声です。

「バリアフリー」という言葉は広く定着し、また国が定めるバリアフリー法では、バリアフリー建築について一定の基準も示されています。

「であれば、その基準に従つて家を建てればバリアフリー住宅が完成」と思う人は多いかもしれません、それは大きな誤解です。バリアフリー法等の法令で定められた基準は「最低限の目安」と捉

えていいでしょう。高齢化や障がいによる身体機能の変化は千差万別。実用的で安心・快適なバリアフリーごとに最適な工夫や配慮が不可欠です。

実際、法令に従つただけで建てられた物件で「住民が使用している車いすではトイレに入れない」「あちこちに手すりがあるが、どちらも使えない」といったトラブルは、いまだに後を絶ちません。ある車いすユーザーからは、「バリアフリー」と標榜している賃貸アパートに居住を申し込むと『車いすの方は対象外です』と断られた」という驚きの事例も聞きました。

たとえ「バリアフリー」という看板を掲げている企業でも、信頼に足る相談相手になり得るかわからぬ、というのが実際のところなのです。

バリアフリーの住環境を求め

ショールームは来春に向けて大幅リノベーションの最中。もちろん店内には車いすのままアクセス可能

## 現場経験豊富で有資格の 福祉のプロも常駐

土屋ホームトピア・ノーマライゼーション支店(以下「ノーマライゼーション支店」と表記)は平成20年にオープン。29年に組織改組を実施し、バリアフリーの住環境についての相談、需要に対応して手厚い対応ができる体制を創りあげました。

スタッフは3名で、それぞれが住環境や福祉用具関連だけではなく、社会福祉士や介護福祉士といった「福祉系」の幅広い資格も所有し、現場での経験も豊富。住宅を



- ・福祉住環境コーディネーター
- ・福祉用具専門相談員
- ・ホームヘルパー
- ・ファイナンシャル・プランニング技能士
- ・アフィリエイティッド ファイナンシャル プランナー

- ・介護支援専門員（ケアマネジャー）
- ・社会福祉士
- ・精神保健福祉士
- ・介護福祉士

## ～ノーマライゼーション支店スタッフが持つ資格～



- ・新築
- ・リフォーム
- ・不動産

## ～建築のプロ・土屋グループ～

- ・介護機器の販売・レンタル
- ・体験
- ・機器を活用した家づくりの提案
- ・情報提供
- etc…



- ・バリアフリーのプランニング
- ・住み替えのアドバイス
- ・助成、給付金の申請代行
- ・福祉住宅以外の助成金活用アドバイス
- ・長く住める家づくりのアドバイス
- etc…

## 建築と福祉双方の視点を持つサービス

プランニングしていく際には、そ  
んな心強いスタッフが福祉的視点  
を持ちつつアドバイスしてくれ  
ます。

ノーマライゼーション支店は、  
土屋グループなかでリフォーム部  
門を担う土屋ホームトピアに属  
していますが、新築や不動産流通  
部門を担う土屋ホームとの連携  
もバツチリ。福祉と建築のプロが  
知恵を出し合ふことで、確かなバ  
リアフリー住宅を完成させるの  
はもちろん、ケースによっては新  
築やリフォームではなく、住み替  
えにもしっかりと対応できるのも大  
きな強みでしょう。

ノーマライゼーション支店では  
29年の組織改組と同時に、介護保  
険事業の福祉用具貸与・販売事業  
もスタート。これにより、住宅への  
相談に対応できる範囲も広がりま  
した。機器の導入を視野に入れ  
ることで、家族がより長く住み続  
けられる提案など、柔軟にプラン  
を立てていくことができます。ま  
た不慮の事故や病気などで「急に  
バリアフリーの住環境が必要に  
なったけれど予算が無い」などの  
相談に対しても、なんとか機器を  
活用して凌ぐ、といった提案も可  
能です。

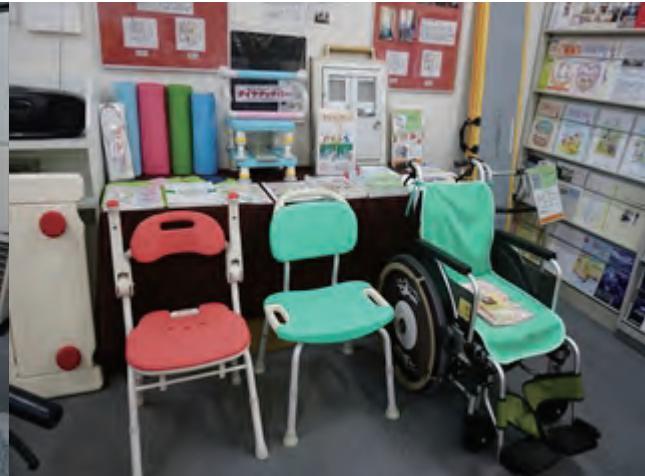
### 助成・給付金申請の 煩雑な手続きも代行

そして、心強いサービスのひとつ  
として「助成や給付の申請代行」  
もあります。

自治体などが実施しているバ  
リアフリー住宅が対象の助成や  
給付はいくつかあります。しかし  
情報収集には手間がかかり、しか  
も手続きが非常に煩雑です。「あ  
まりに手続きが面倒なので、助成  
を受けるのはあきらめた」という  
ユーザーも少なくありません。

ノーマライゼーション支店に相

福祉機器のラインナップは国内製品をほぼ網羅。できるだけ実際に使い心地を試すことができるように、カタログだけでなくできるだけ現物を用意している



談すれば、その手間を解消してくれるだけではありません。例えばバリアフリーのリフォームをする際、大規模な工事が必要になるケースもあります。そんな場合は耐震や省エネなど、バリアフリー関連以外の助成・給付対象に該当するようなりフォームをすることです、結果的に全体の費用を抑えることができる場合もあります。住宅の傷み具合や今後の生活設計

「住環境はもちろんですが、まずはお客様の心のバリアフリーに最重点を置いています」。ノーマライゼーション支店の池田広行支店長は、そう話します。「不慮の病気や事故で障がいが残った、気づけば親、あるいはご本人の認知症が進んできました。そういう方々などは、住環境だけでなく、あらゆることを相談しにくい気持ちにおちいつています。当店に福祉のエキスパートが常駐しているのは、そうした皆様が気軽に、いつでも何でもご相談していただけるよう、適切な対応ができるように、という意図もあります」。

などを総合的の検討しながら、そうしたプロならではの適切なアイデアを提供してくれるのも、ユーダイーには心強い限りです。

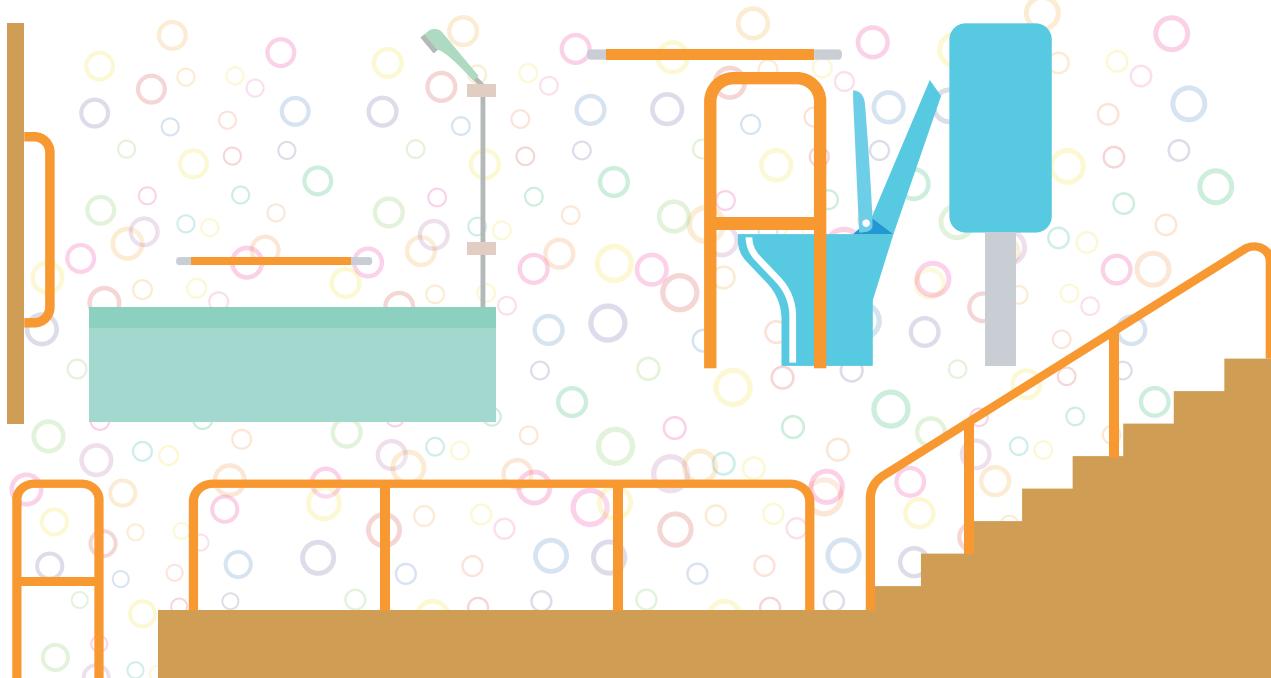
## 来春はさらに規模を拡大 大規模ショールームも

これまで紹介した通り、ノーマライゼーション支店はバリアフリー住宅や住環境に関するあらゆる相談ができます。アクセスが困難な人には、出張相談のサービスも実施しているので、まずは迷わずお電話を。

そして現在、社屋を大規模改装中。来春には大きなショールームをオープンし、ノーマライゼーション支店はさらに機能を充実させてリニューアルします。



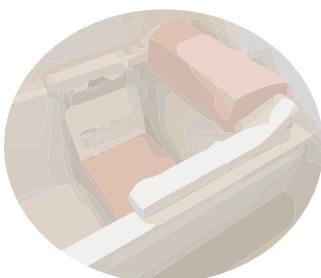
「時間をかけて、なんでもじっくりとご相談ください」。建築と福祉を熟知したスタッフは心強い



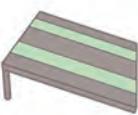
いいね！この機器・あの補助具

## 安心・快適！サポートアイテム

用途に応じてたくさんの種類がある「福祉機器・用具」。この世で利用されているあらゆる機器と同じく、福祉機器・用具も日進月歩で進化しており、身体機能の低下を補うだけでなく、より豊かな暮らしをサポートしてくれる機器も開発されています。公的サポートを利用可・不可にとらわれず、あらゆる機器・用具から『スグレモノ』を見つけてきました。



## 介護保険でレンタルの適用になる13の福祉用具

- ✓ 車いす 
  - ✓ 特殊寝台 
  - ✓ 車いす付属品 
  - ✓ 特殊寝台付属品
  - ✓ 床ずれ防止用具 
  - ✓ 行歩補助つえ 
  - ✓ スロープ 
  - ✓ 歩行器 
  - ✓ 手すり 
  - ✓ 体位変換機 
  - ✓ 認知症老人徘徊感知器 
  - ✓ 移動用リフト 
  - ✓ 自動排泄処理装置 
- 介護保険で「レンタル」の適用できるのが、こちらの特定福祉用具。このほかに「購入」対象として5種類の用具があります



### ～介護保険を利用しているひと～

公的に認められている用具は、介護保険法における「(介護予防)福祉用具貸与費」や「特定(介護予防)福祉用具購入費」として保険給付されます。お世話になっている介護支援員などに相談してください。

福祉用具は大きく2つに分類されます。それぞれ適用できる制度や範囲、機器の種類が異なっています



### ～障害者手帳を利用しているひと～

公的に認められている用具は、障害者総合支援法における「補装具費支給制度」や「日常生活用具給付等事業」に基づき、補装具費として支給、日常生活用具として給付、または貸与を受けられます。お住まいの市町村の障害福祉窓口に相談してください。





## サイズも用途もジャストな機器を 独自の技術イレクターで実現

販売 矢崎化工株式会社  
お問い合わせ : 0120-63-4285  
<https://www.yazaki.co.jp/project/welfare/>

プラスチックでコードティングしたスチールパイプを、用途に応じて容易に組立てて活用できる「イレクター」のメーカーとして知られる矢崎化工。イレクターは国内外産業の最先端の現場から一般家庭まで広く愛用されています。

同社は30年前、ある理学療法士から「身体の不自由な人のリハビリ用に、浴室で使えるいすを、イレクターの技術を応用して作って



自動走行する屋内用輸送車、冬の屋外や悪路での荷物搬送の負担を大きく軽減するキャタピラー式の台車etc…。老舗メーカーである矢崎化工の技術と製品は福祉機器にとどまらず、国内外の最先端の生産現場で広く活用されている。



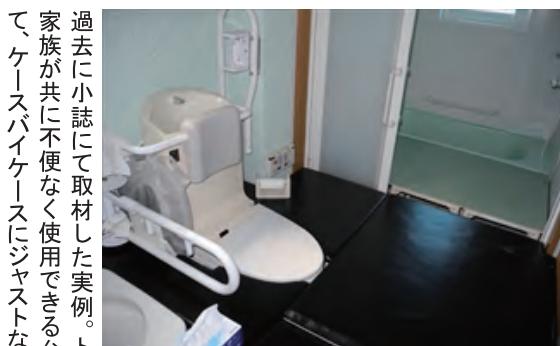
いいね！この機器・あの補助具



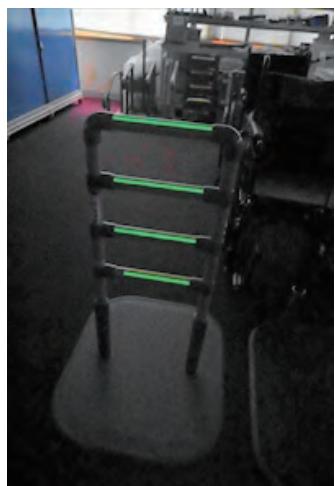
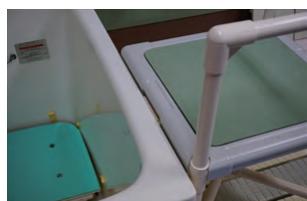
屋内でも屋外でも、段差に応じて自在に手すりや補助具を設置できる。希望に応じて壁や床などへの施工も対応可能なのはもちろん、介護保険や助成金の給付条件に合わせて、さまざまな選択肢に応じることができる。



玄関の段差解消が困難なので大きな窓から出入りできる階段の設置例。必要が無くなった際の撤去も容易だ。階段部分の代わりにアルミ板などを渡してスロープにもできる



過去に小誌にて取材した実例。トイレや浴室を、障がいのある人にとって、ケースバイケースにジャストな対応が可能。



直線形状のイレクターで造作したシャワーチェアなら浴槽が直線ならしっかりと密着できる(写真左上下)。

安全面に配慮して蓄光素材を加工した機器もある(写真右)。

「ほしい」と相談を受けました。その時、理学療法士が携えていたのはプラスチックのビールケース。当時はシャワーチェアが国内には無く、なんと介護の現場ではビールケースが活用されていたのです。そのことをきっかけに矢崎化工の福祉機器への取り組みがスタートしました。今では同社の主要1部門となっており、施設や在宅介護事業者からも厚い信頼が寄せられています。

同社の製品は入浴やトイレ、外構や屋内での補助用具が主力。規格品をベースにサイズのオーダー、介護保険や補助金に応じた加工など、イレクターの特性を生かした製品は設置も撤去も容易。多様な条件に対応でき、緊急のバリアフリー、賃貸住宅などにも導入しやすい、この会社ならではのラインナップは魅力です。



発売以来、予想をはるかに上回る問い合わせが来ているウォーターウィール。レンタルのサービスもあるので、まずは気軽に問い合わせを

## 誰でも水遊びを思いっきり満喫 水に浮く車いすウォーターウィール

販売 アビリティーズ・ケアネット(株)

お問い合わせ : 011-596-9202

<https://www.abilities.jp/>

例えばアメリカの場合、ハワイのサーフィンやアラスカのウイントースポーツ各種など、海外には誰もが親しめるスポーツ・レジャーを、重度の障がいがあつても楽しめるサービスがたくさんあります。日本ではパラスポーツのための車いすなどはありますが、アウトドアを楽しめるような用具は、ほぼ皆無に近い状況です。



東光ストア藤野店の2階にオープンしたショールームは広々として、明るい雰囲気が魅力。一般的な商業施設のなかに福祉機器に見て触れ、プロの説明をじっくり聞けるこうした場所ができるのは、道内では初めてかもしれない。

いいね!

この機器・あの補助具



さまざまな機器のほとんどを、実際に触れて使いやすさを確かめられる。



ショールームはこあらう



海外や国内他社の製品や日用品も広く取り扱っている。小さな企業の作る逸品などとも出会えるのも、ここの大きな魅力。

所在地：札幌市南区藤野2条4丁目1-2

駐車場600台ぶん完備

簡単に分解＆持ち運びができるよう、クイックリースその他細やかな配慮が行き届いている。介護する人にも非常に使いやすい。



単体では不安定なので、複数人でサポートしながら使用する。浮力のほか各部には、介護しやすいように持ち手がたくさん(写真上)。

押すだけでは砂浜での移動が困難なので、けん引用のベルトも装着している(写真下)。



伊東氏は過去100社以上から採用を断られた末に、この事業体を発足。障がいや身体機能が低下した人たちの目線に立てる製品やサービスは、障がい者の機会均等という発想が無い時代から苦労を重ねた末に開発した、創業者ならではの想いが込められたものばかりです。

そんななか、満を持して国産の水遊び用車いす「ウォーターウィール」が誕生しました。製造・販売するアビリティーズ・ケアネットは、ご自身がポリオと共に生きる伊東弘泰氏により50余年前に創業。グループ法人であるNPO日本アビリティーズ協会との両輪で、多彩な福祉機器の製造販売から国内外の機器も広く取扱う商社として機能、住宅や施設のコンサルティングなど幅広い分野で事業展開しています。

体形や障がいの度合いなどに合わせたセミオーダーはもちろんOK。キッズ用タイプもある。



## 脳性まひでもスムーズ自走 ABSを駆使した車いす*Rhythm*

販売 株式会社 ミキ

お問い合わせ 0570-00-3993

<https://www.kurumaisu-miki.co.jp/index.html>

一見すると、なんら変哲のない車いす。ところが、よくよく探つてみると高度な理論と技術が存分に注がれていることがわかつてくる。それがこの、脳性まひの人の自走のしやすさに特化した車いす*Rhythm*(リズム)です。たとえ同じ障がいでも、車いすはその度合い、体形、身体の状態などに応じてピッタリに作り上げることが絶対条件。脳性まひの場合



手を添えて上半身を前後に動かすだけで、スムーズに進めるよう考案されたホイール。握らなくてもいいので、手の動作が不自由でも操作しやすく、上半身をリズミカルに動かすことによるリハビリ効果も期待できる。



いいね！この機器・あの補助具

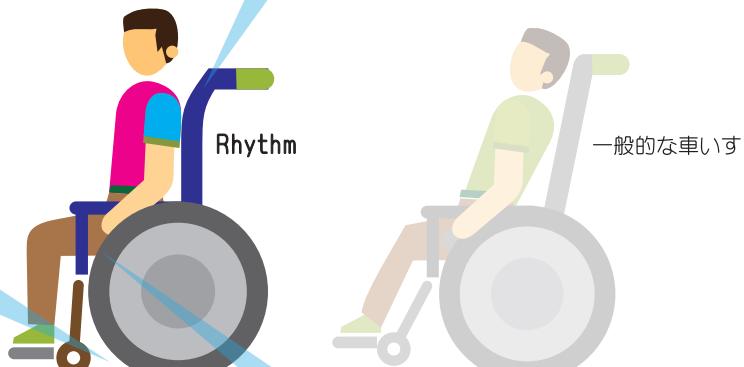
腰や上半身を無理に固定することなく、ベストなバランスの姿勢を保持できるベルト。



背もたれの上部を後方に反らすことで上半身の可動範囲が拡がり、痙攣しても姿勢が崩れにくい。



一般的な車いすより、フットサポートが手前に引き込んだ位置にある。膝の角度が開いていると起きやすくなる痙攣を抑えるための工夫。



そうした脳性まひの人にとっての使いにくさを改善した車いすがRhythm。北海道立肢体不自由者訓練センターのO.B・西村重男氏と北海道大学の八田達夫名誉教授が長年の共同研究の末たどり着いたABS(アクティブバランスシーティング)という概念を取り入れ、日本屈指の車いすメーカー・ミキが実現化した逸品です。細部に凝らされた、まさに北海道発の先進的な知恵と工夫が、脳性まひの人のアクティブな行動をしっかりとサポートします。

シートの前部も上向きに反らせている。「これも膝の角度ができるだけ開かないよう」にするために施された工夫。

も、歩行可能な軽度から全介護をする。「車いすが必要だけ、自走ができる」という人にとって、一般的な車いすでは、この障がいの特徴でもある痙攣が起きやすかつたり、ホイールを動かしにくいための難点があります。



当財団で過去に取材したときの写真。「単身で入浴できるようになり、生きていると実感する毎日を送れるようになりました」とおっしゃっていた

## スイッチ操作で座面が上下 施工も不要のらくちんバスリフト

販売 TOTO 株式会社

お問い合わせ : 0120-03-1010

<https://jp.toto.com/products/ud/>

バリアフリー住宅を実現する上で「入浴」は大きなハードル。使う人の身体機能によって、あるいは介護する人の体力などによっては、"入浴できる家づくり"をあきらめてしまうケースも珍しくありません。

これまで、「サービスをフル活用することで、一応は入浴の問題はクリアできる」という発想のもと、無理に浴室をバリアフリーに



近年は浴槽のタイプが多様化しているが、できるだけ多くの形状に対応するためのオプションパーツも用意している。アームレストが付いている浴槽には、こちらの「アームレスト乗越えキット」で対応可能。



いいね！この機器・あの補助具



座面を浴槽の底に下げる、このオプションパーツ「背当てボード」を取り付けると、しっかりと使う人の姿勢を保持する。



トランクファーボード(別売り)とセットで使用することで、浴槽から距離のある位置で腰掛け、移乗することも。障がいの程度によってはトランクファーボードだけで浴槽への出入りも可能。



介護保険のレンタルの対象にもなっているので、施設はもちろん高齢者がいる個人宅でも手軽に導入可能。身体機能に合わせた補助具も充実しています。

介護用にはもちろん、障がいの度合いに応じて単身での入浴もバッチリ。浴槽への加工も不要で、乗せるだけで使用できます。



リモコンでスイッチを操作して座面を上げ下げ。電源は充電式のバッテリーなので浴室内にコンセントは不要。体重35~100kgまで使用できる強度がある。



※この製品は TOTO (株)での直接販売はしておりません。購入 or レンタルをご希望の方は、福祉機器取り扱い店等にお問い合わせください。

多彩なタイプのバス、入浴用製品を取り扱うTOTOでは、優れたバリアフリー製品のラインナップも充実。とりわけ、この「バスクフット」には注目です。座面が電動で上下する構造になっており、使う人が座つてスイッチ操作するだけでお湯につかることができます。

しないケースを多数取材してきました。しかし、このたび「口ナ禍に見舞われたことで、その発想を転換する必要性を感じている人は多いのではないか」という。

# ミスをしないための “教訓的”いくつかの事例



○さんの長女は生活全般に介護が必要。そのため “介護の負担が少ない家づくり” をテーマに新築を進めました。

せぬまま希望のうちの1つに「玄関ドアの開き方」がありました。幼い長女と共に外出するには、抱きかかえたままドアを開け閉めする必要があります。その動作がしやすいよう、○さんは内開きのドアを希望しました。

設計士の主張に従つたら…

デザインはもちろん重要ですが、使いやすさ”が何より大切。自身や家族の生活動作を確認し、イン上、外開きにしたほうがよい」と主張。疑問のままに待望の最優先しました。



どんな家づくりにもミスするリスクはつきもの。一方ミスの事例を情報化することで、先々の教訓として残すことができると思います。ここでは過去に小誌が出会ったミス、そしてミスへの対応が成功したなど、4例を紹介します。



交通事故により頸椎を損傷してしまった一さん。両腕にかすかな力が入る以外、全身に麻痺が残りました。

建設業に従事していた一さんはリハビリ後すぐ生活できるよう、業界の知人に依頼し、入院中に自宅をバリアフリーにリフォーム。大部分は要望どおり完成しましたが、玄関で車いすを屋外用と室内用に乗り換えるため箇所に限りはありますが、実際に使ってみて不備が見つかった際は柔軟に対応できるようにしておいた一さんの機転には感謝ありました。心しました。

数ミリながら高さが合わず、台に移乗できなかつたのです。

しかし一さんはリハビリを経験しながら、そのリスクを予感していました。事前に工事を行つてくれた知人たちに「やり直しを依頼するかも知れない箇所がいくつかある」と伝えておき、すぐに対処してもらえたようにしていました。

箇所に限りはありますが、実際に使ってみて不備が見つかつた際は柔軟に対応できるようにしておいた一さんの機転には感謝ありました。心しました。

## 移乗台の高さが合わない…

Mさんは生まれつき重度の障がいがあり、生活全般に介護が必要な男の子がいます。Oさんと同じく介護の負担をできるだけ軽減させる家づくりを目指し、理想どおりの完成を迎えることができました。



重度障がいの幼いお子さんが多いバリアフリー住宅を計画する際、大きな課題の一つになりがちのが浴室。長い間自宅で過ごすことを前提にすると、やはり「入浴サービスませたい」と希望する人が多いのは当然と言ふべきでしょう。

機器で失敗してしまったのは、ありがちな事例です。機器選びも一つ一つ寧に行つてください。

Mさんの新居は浴室、介護しながら着替えなどをするHTT、共に広さも十分な満足いく完成になりました。ところがある設備だけ失敗してしまいます。お子さんの身体を拭いたり着替えさせたりするためのベンチです。

## うっかり購入したベンチ…

購入したのは介護用具ではなく一般的な既製品で、未使用の際はできるだけHTTを広く使えるように座面が跳ね上がり、介護する人が絶えず腰をかがめなければなりません。高さの調整機能はなく、仕方なく別

Mさんの新居は浴室、介護しながら着替えなどをするHTT、共に広さも十分な満足いく完成になりました。ところがある設備だけ失敗してしまいます。お子さんの身体を拭いたり着替えさせたりするためのベンチです。

Mさんの新居は浴室、介護しながら着替えなどをするHTT、共に広さも十分な満足いく完成になりました。ところがある設備だけ失敗してしまいます。お子さんの身体を拭いたり着替えさせたりするためのベンチです。

Aさんは脳梗塞で片半身麻痺になつたお父様のために自宅をリフォームしました。

もともと自立心の強いお父様

は、身体が不自由になつても「自分で自分は自分でやりたい」という気持ちが、とても強い人。Aさんはそんな意思を尊重した

いと、可能な限りお父様が自立生活できることに心をくだ

いたリフォームを行います。そ

の甲斐あって、小さくて制限の

多い条件ながらも、お父様が

日常生活をほとんど単独でこ

なせる完成となりました。

Aさんは「父への配慮が逆効

果になつたのでは」と、非常に落

ち込みました。しかしAさんは

“理想的”なバリアフリーを実

現しています。これは家の機能性

だけでなく、日常の過ごし方の重

要性も考える貴重な事例と言え

るかもしません。

このが、予期せぬことが起

こります。お父様は、なんとか杖を使いながら歩行できましたが、転倒の危険性が高いこと、先々歩行が困難になつたときのことなどに考慮し、家の隅々までフック

## せっかく万全にしたのに…



トにし、車いすでも移動可能にしました。すると

お父様は、どうしても歩

行よりも楽な車いす移動ばかりをするようになります。そのため足腰がみるみる弱くな

り、杖をついての歩行すぐでき

なくなつてしまつたのです。並

行するように認知症の症状も

出てきてしまつました。

Aさんは「父への配慮が逆効

果になつたのでは」と、非常に落

ち込みました。しかしAさんは

“理想的”なバリアフリーを実

現しています。これは家の機能性

だけでなく、日常の過ごし方の重

要性も考える貴重な事例と言え

るかもしません。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス。現在日本では一時的に収束へと向かっていますが、いつまた感染拡大するかは誰にもわかりません。

当財団では感染への懸念から、福祉住宅建築主様への取材が困難と判断し、昨年は「ふれあい」の発行を見送させていただきました。しかし福祉住宅に関連する貴重な情報は世の中にたくさんあり、それらを必要とする皆様に少しでも届けたい。そんな思いから今年度は、従来とは異なる編集内容の特別号を発行することいたしました。

コロナ禍で人々が営みを変化せざるを得ない状況のなかより快適に過ごせる住まいの提案、が、私たちにとっての使命と考えます。この特別号は「失敗しないバリアフリーを実現するノウハウ」、「暮らしをより快適で豊かにする優れた機器」の紹介という2つの内容を柱にしました。ページ数に限りがあるため、情報量にも限度があることをお詫びしつつ、今後さらに「ふれあい」の内容充実を図るための実験的な編集を試みました。

まだまだ少ないバリアフリーの情報を少しでも広く届けられるよう、一層の努力を重ねる所存です。

(公財)ノーマライゼーション住宅財団

2021  
**ふれあい**

特別号

編集・発行

公益財団法人

**ノーマライゼーション住宅財団**

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9F

電話(011)613-7551 FAX(011)612-8431

<http://www.normalize.or.jp/>

2021年10月発行

すべての人にやさしい住まいの環境を考える  
Normalization Housing Foundation

## 2021年度 福祉住宅 福祉小規模集合住宅 バリアフリー

# 建 築 助 成

総額300万円

「すべての人が共に暮らしき共に生きることが  
ノーマル(正常)である」という  
ノーマライゼーション理念に基づき、  
高齢者や障がい者にとっても安全・安心で  
快適に暮らせる住生活環境の整備・向上のため、  
助成金により福祉住宅の建築を支援いたします。

### 助成の対象者

高齢者や障がい者が安心して暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築やリフォームした建築主  
※原則として2020年12月以降に工事が完了した物件

福祉住宅	新築(バリアフリーにした物件)やリフォーム(住宅内外の手すり・スロープ・トイレ・浴室等)の住宅改善・改修した建築主
福祉小規模集合住宅	グループホームや高齢者向けアパートなど(10名程度居住)の建築主

### 応募期間

2021年5月1日～11月30日(必着) 年1回公募

### 応募先

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ループル16 9F

TEL: 011-613-7551

FAX: 011-612-8431

E-mail: zaidan@tsuchiya.co.jp



詳しくは

ウェブサイトを

ご覧ください→

<http://www.normalize.or.jp/>

主 催 | 公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

後 援 | 北海道 社会福祉法人北海道社会福祉協議会  
札幌市 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 北海道デザイン協議会

福祉住宅の実例、財団の活動に関しては

ノーマライゼーション住宅財団のホームページをご覧ください



<http://www.normalizw.or.jp/>